

徹底的な顧客満足への追求

東京エレクトロンの最大の強みは創業以来受け継がれてきた徹底的な顧客満足への追求です。真の顧客ニーズを発掘する営業部隊、お客様の工場において装置の安定稼働を支えるサービス・サポート部隊、そして顧客密着型の開発をリードする開発部隊。各部隊の顧客第一主義の活動から生まれる東京エレクトロンの数々の製品は、世界の半導体生産ラインの中核を担っています。

ナンバーワン戦略で業界における高いポジションを確保

東京エレクトロンは、常に技術的イノベーションを生み出す差別化により、参入するそれぞれの装置分野でナンバーワンになることを目指し、経営資源を投入しています。この結果、複数の装置分野における次世代技術の開発面で優位性を保ち、時代に先行して新たな差別化技術を獲得し、競合優位のポジションを確保することが可能となります。

装置ごとの市場シェア

当社の半導体製造装置は、それぞれの装置分野において、いずれもトップクラスのシェアを確保しています。

東京エレクトロンの各半導体製造装置群における世界市場シェア (2005年)



コータ/デベロッパ



プラズマエッチング装置 (絶縁膜エッチング)



熱処理成膜装置



枚葉成膜装置 (枚葉LP-CVD)



洗浄装置 (ウエットベンチ、スプレープロセス、スクラバー)



ウェーハプローバ

出典: 当社調査



POWERFUL STRENGTH FOR FIRM POSITION

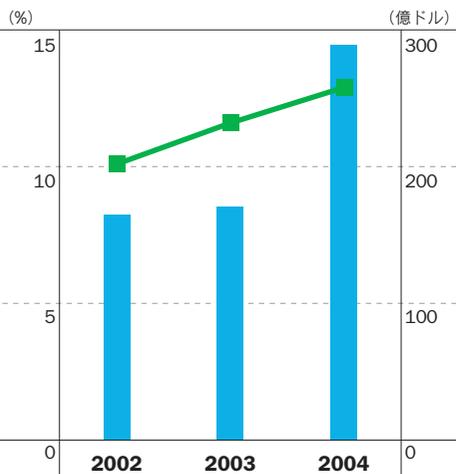


半導体製造装置の市場シェアの向上

顧客満足度を測るバロメータの一つが製品市場シェアの動向です。半導体ウェーハプロセス装置市場全体における当社の市場シェアは、2003年の11.6%から2004年は12.9%へと上昇しました。本格化する300ミリウェーハ時代を支える当社装置の高い量産性能と信頼のサポートがお客様の高い支持を獲得しています。

世界の半導体ウェーハプロセス装置市場と当社のマーケットシェア

(暦年)



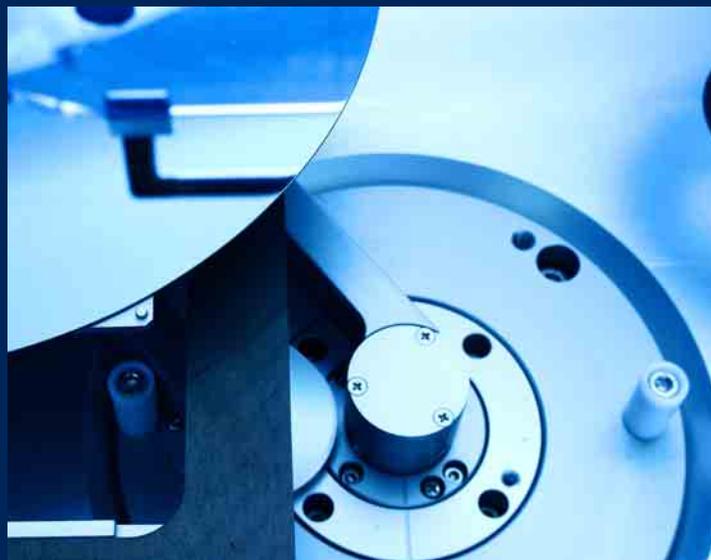
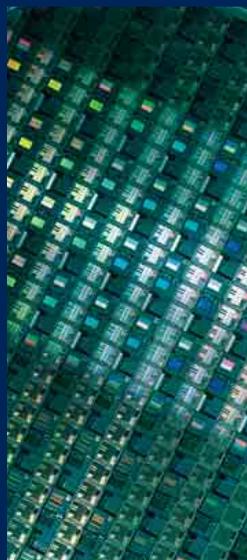
■ 当社シェア ▲ 半導体ウェーハプロセス装置市場

出典: Gartner Dataquest (2005年4月) GS05219

世界最高レベルのサービス・サポート体制

最先端技術の結集である半導体・FPD製造装置をお客さまの工場で安定して稼働させるためには、充実したサービス・サポートが欠かせません。当社は、世界12カ国にサービス拠点を展開し、顧客密着型サポート体制によりお客さまの生産性の向上に貢献しています。

グローバルネットワーク (2005年7月1日現在)



GTH ING

本質的な強みを活かす

MAKING AN EVEN ST FINANCIAL POSITION

財務体質の改善

東京エレクトロンはITバブル期の市場拡大に伴って増加した資産とコストを現在の事業環境に適合させるために、社内オペレーションの効率化を進め、人員、在庫、設備投資の適正化を継続して行ってきました。

その成果として、売上の上昇局面にも関わらず、売上債権回転日数・たな卸資産回転日数は、この2年間で短縮し、キャッシュ・フローも大幅に改善いたしました。

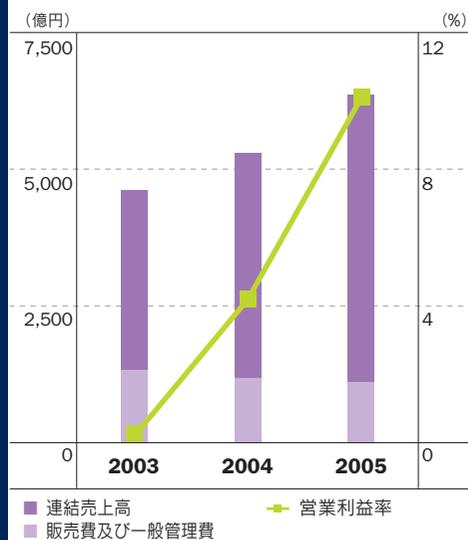
さらなる構造改革の推進

東京エレクトロンは、製造リードタイムの短縮とコスト削減などの構造改革を進めてきました。今後は、これまでの課題に継続的に取り組むとともに、重点課題として品質の向上に注力することにより、さらなる利益率の向上と安定的にキャッシュを生み出す強い財務基盤の確立を目指します。

営業利益率の改善

構造改革の推進によって、営業利益率が大幅に改善しました。売上原価は売上高の増加に伴い増加しましたが、販売費及び一般管理費については、人員の適正化、設備投資の適正化による減価償却費の減少などによって、前年度比5.0%減となりました。この結果、営業利益率は、2003年度から9.9ポイント上昇と大幅に改善されています。

営業利益率・連結売上高・販売費及び一般管理費

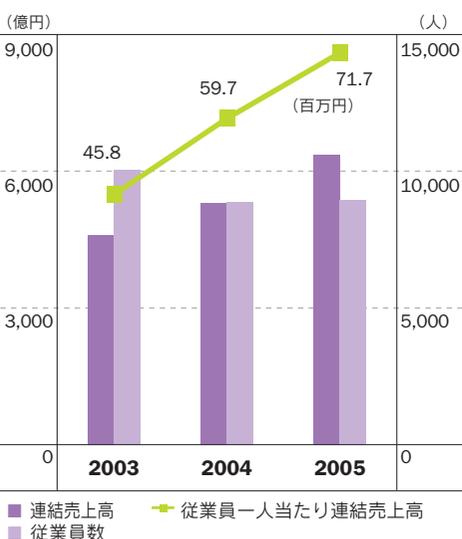




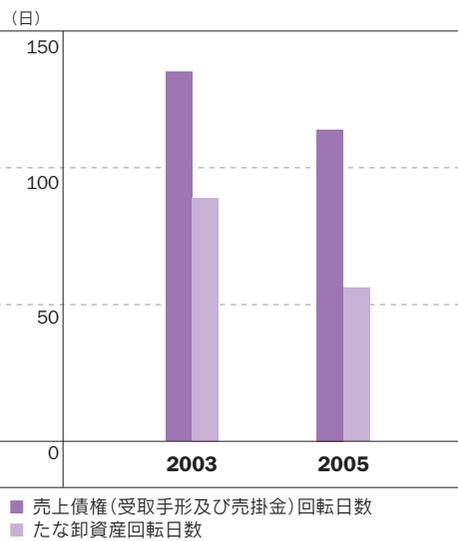
生産性・効率性の向上

2005年3月期は、大幅に需要が増加したものの、製造リードタイムの短縮、製品デザイン・プロセスの見直しなど社内オペレーションの効率化を進めたことにより、生産性・効率性が向上し、一昨年から一人当たり連結売上高は55.0%増加と大幅に上昇しました。

連結売上高・従業員一人当たり連結売上高・従業員数



売上債権回転日数とたな卸資産回転日数



売上債権と在庫の回転日数を改善

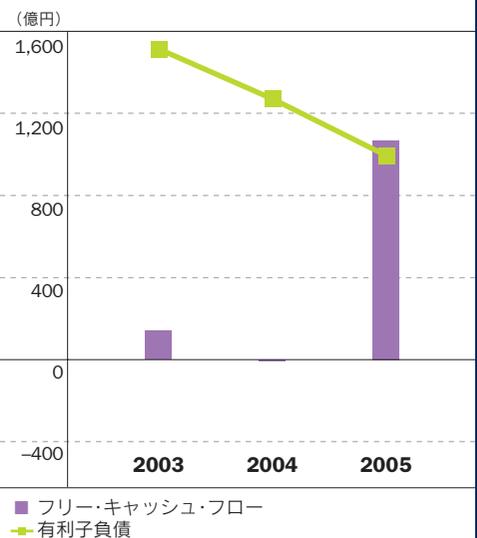
通常売上の上昇局面においては、在庫が増える傾向にありますが、徹底的に在庫の健全性を精査し、在庫水準の適正化に尽力しました。この結果、たな卸資産回転日数は、一昨年度末の89日、昨年度末の72日から56日(出荷ベース)へと劇的に短縮されています。

製品の売上代金の回収期間を短縮するには、装置の据付調整にかかる期間を短縮させることが不可欠です。顧客との支払い条件の見直しを進める一方、当社では装置の標準化や品質の向上を通じて、据付期間の短縮に努めています。この結果、売上債権回転日数は、一昨年度末の135日、昨年度末の159日から114日(出荷ベース)へと順調に短縮されています。

フリー・キャッシュ・フローの創出と有利子負債の低減

売上債権や在庫の適正化により、売上拡大局面においても必要運転資金を抑制することに成功。設備投資も主として研究開発関連やより生産性を高めるためのITインフラ構築に集中することによって適正化を図り、1,000億円を超えるフリー・キャッシュ・フローを生み出しました。こうして生み出されたキャッシュを当期は開発投資に使うとともに、積極的に有利子負債の返済に充てました。これによりネットデットがマイナスに転じ、事実上の無借金経営を実現しています。

フリー・キャッシュ・フローと有利子負債



求められる技術と開発投資

顧客ニーズは高集積化、多機能化、高速処理、低消費電力化、高い量産性能など多岐にわたります。当社は実際の半導体工場と同じ環境を提供できるプロセステクノロジーセンターを中心に、世界のお客さま、コンソーシアム、大学などと最先端技術の共同開発を展開。ますます難易度が高くなる半導体製造技術開発において、テクノロジー・リーダーシップを発揮することで、的確なソリューションを提供する装置開発を推進しています。

さらなる飛躍に向けて

東京エレクトロンの目指すものは、さらなる企業価値の向上。昨年度までの構造改革に引き続き、段階的な施策の実行により、業界サイクルのピークごとに過去の記録を上回る利益水準を目指します。

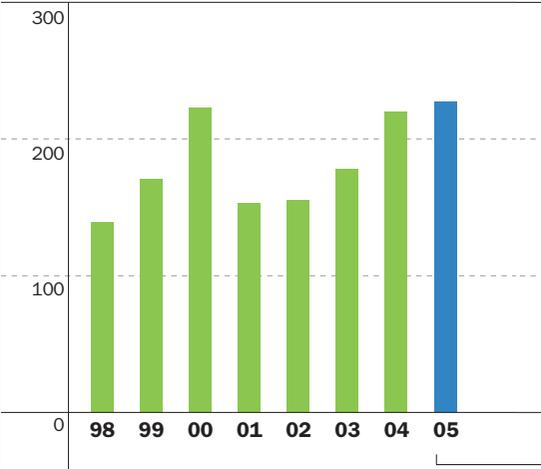
半導体関連市場は今後も大きな成長が見込まれる

アプリケーションの拡大に伴い、半導体の出荷個数は爆発的に増大し、その生産を支える半導体製造装置にも大きな需要が見込まれます。次のピークとされる2008年の半導体市場及び半導体ウェーハプロセス装置市場は、いずれも活況を呈した2004年の市場規模の1.3倍にも拡大することが予想されています。

世界の半導体市場

(暦年)

(十億米ドル)



出典: Gartner Dataquest (2005年4月) GJ05220

半導体需要は新たなアプリケーションが牽引

これまでは、パソコンが中心となって半導体市場の成長を牽引してきました。今後は、これに加え、新たなアプリケーションとして、モバイル機器、自動車、デジタルコンシューマー製品、といった新しいアプリケーションが半導体市場を力強く牽引していくと予想されています。

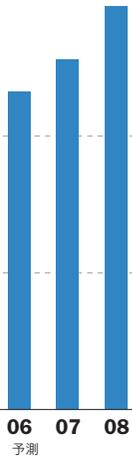
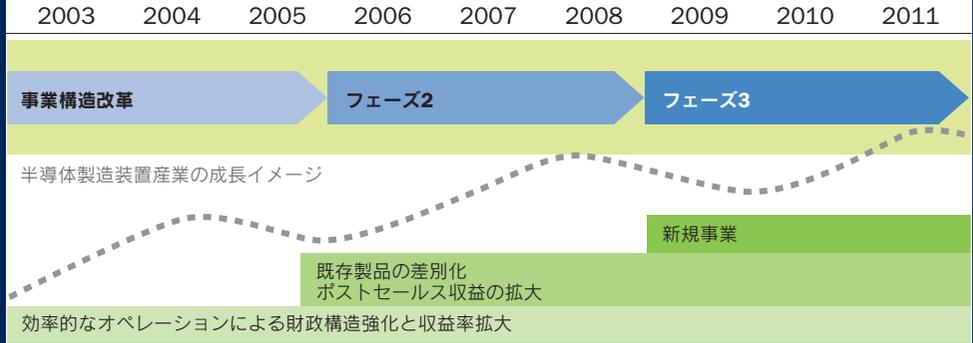
ENVISIONING FURTH BY INNOVATIVE TECH



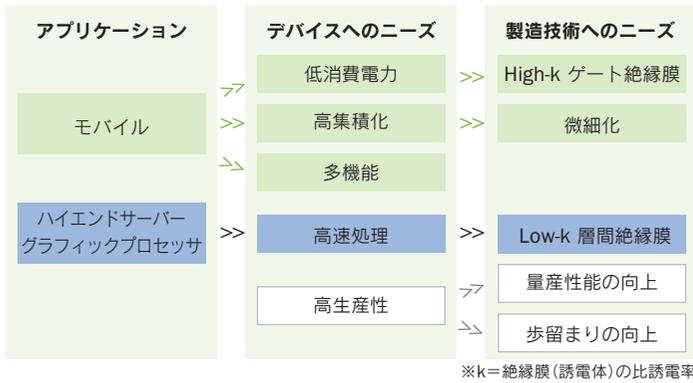
過去を上回る利益の成長に向けて

構造改革の継続の実施項目としてコスト削減、リードタイムの短縮を推し進める一方、次なるステップとして、既存製品群の付加価値の向上による競争力の強化とパーツセールスや装置の改造への対応などのポストセールスビジネス拡大を推進します。また現在開発を行っているプロジェクトが結実することにより、さらにその次の段階で、新規分野における製品展開による利益の拡大を想定しています。

収益性向上に向けて



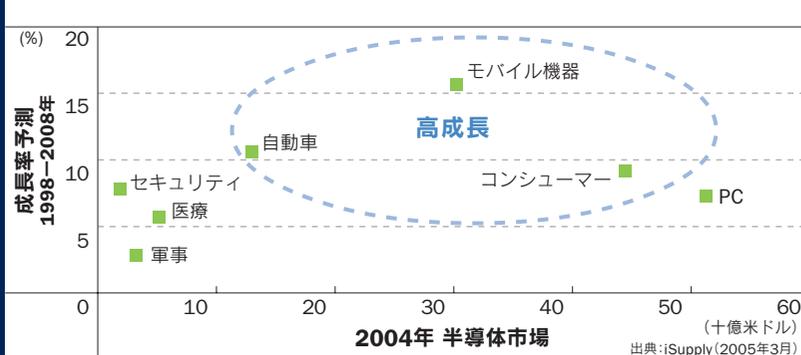
デバイスと製造装置へのニーズ



最終製品に求められる半導体技術を提供

デジタルネットワーク時代のなかで動画データなどをスムーズにやり取りするためには、モバイル端末はより軽量化し、バッテリーによる長時間稼働を求められます。また、それらをつなぐネットワークは、さらに高い処理能力とデータストレージの容量を持った高性能サーバーが支えます。東京エレクトロンは、最終製品のニーズを的確に捉えた最先端の技術開発を行っています。

半導体市場の用途別予測 1998-2008年(暦年)



ER GROWTH NOLOGY

成長を支える技術投資